

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	わんぱく企画 有限会社
公演団体名	わんぱく寄席・学校寄席

内容

落語ってなんだろう？ はじめての寄席 事前ワークショップ コロナ対応版

パターン1

ワークショップで落語や寄席の解説を聞き
本公演は実際の落語をご覧ください内容

1限目 寄席(落語) ってなんだろう？…45分～60分

全員参加 全員参加が難しい場合は、
学年参加でも大丈夫です



落語のみかた

たのしい解説で落語の世界をご紹介します



寄席(下座) 音楽の解説

邦楽のダイジェスト版？この出囃子は誰のかな



上下の使い方

一人で何役も表現する落語その表現の方法は？



しぐさってなあに？

てぬぐいと扇子はどうやってつかうの？



落語の修行体験？

一日落語家入門めざせあしたの名人！

パターン 2

ワークショップの日程がとれない学校様向け
本公演の前の時間を使って実施します

1限目 ^{よ せ}寄席(落語) ってなんだろう?…45分～60分

全員参加 全員参加が難しい場合は、
学年参加でも大丈夫です



落語のみかた

たのしい解説で落語の世界をご紹介します



^{げ ざ}寄席(下座) 音楽の解説 邦楽のダイジェスト版? この出囃子は誰のかな



^{かもしも}上下の使い方 一人で何役も表現する落語その表現の方法は?



しぐさってなあに? てぬぐいと扇子はどうやってつかうの?



落語の修行体験? 一日落語家入門めざせあしたの名人!

休憩 15 分

2限目 わくわく落語教室 …45分

クラス単位・学年単位

割愛することも可能です



その1 おもしろいと思ったところを話し合おう!



その2 実際に声に出して言ってみよう!



練習1 一番太鼓、出囃子



練習2 寄席踊り「かっぱれ」の練習

わんぱく企画有限会社

「新型コロナウイルス」の感染防止 ガイドライン

子どもたちや先生方、その地域の方々そして出演者・スタッフの健康と安全を守り、楽しい鑑賞会とするために、以下のような新型コロナウイルス感染防止対策を行います。

① 出演者・スタッフの体調管理

下記に該当する者は公演現場には行かせません。

- ・ 37.5 度以上の発熱がある者
- ・ 新型コロナウイルス感染症の陽性と判明したものとの濃厚接触がある者。
- ・ 同居家族や身近な知人の感染が疑われる者。
- ・ 咳・味覚障害・嗅覚障害等の症状がある者。

② 公演に関して

- ・ マスクまたはフェイスシールド、（本番以外）
- ・ 消毒液や除菌シートを持参し、こまめな消毒、手洗いを行います。
- ・ 決められた場所以外に立ち入りません。
- ・ 先生方との打合わせは1名に限定します。
- ・ 昼食は、出演者・スタッフが持参します。
- ・ 飲み物は、出演者・スタッフが各自ペットボトル等を持参します。
- ・ 全ての窓などを開放し、換気に努めます。
- ・ 舞台と観客席の間を通常より広く取ります。（おおよそ 2m 以上）
- ・ 児童生徒・教師のみなさんはマスク着用をお願いします。
- ・ 会場・控え室・トイレ等、打合わせで指定した場所以外は立ち入りません。
- ・ ゴミは、すべて持ち帰ります。

タイムスケジュール（標準）

パターン1 ワークショップが1限目のみの場合

ワークショップが10:00の場合

到着	仕込み	1限目
8:00	8:00～10:00	10:00～11:00

パターン2 ワークショップを午前中、本公演を午後に行う場合

ワークショップが10:00開始、本公演が13:30の場合

到着	仕込み	1限目	内休憩	2限目	休憩
8:00	8:00～10:00	10:00～11:00	15分	11:15～12:00	
本公演	内休憩	撤去	退出		
13:30～ 15:10	10分	15:10～17:00	17:00		

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

講師 5 名 スタッフ 1 名

学校における事前指導

落語のセリフのテキストと一番太鼓のたたき方のDVDをワークショップの前にお渡しします。
ワークショップで実際に師匠に教わった後に、本公演まで練習をお願い致します

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	わんぱく企画 有限会社
公演団体名	わんぱく寄席・学校寄席

演目

わんぱく寄席・学校寄席
はじまりはじまり！

発表

児童・生徒代表が披露する

一番太鼓

「どんどんとこーい」開場とともに
賑やかにみなさんをお出迎えいたします。



落語

開口一番
若手落語家



柳亭市若 ほか

はじまりは、元気いっぱいの
若手落語家による落語。
わかりやすく楽しい演目を
お話し致します。

※演目は当日子どもたちの様子を見て
その場で決めます。
なんのおはなしになるのかお楽しみに！

落語

大阪の笑い
上方落語家



笑福亭呂好 ほか

落語には東京の江戸落語と
大阪の上方落語があります。
東京の落語家さんと話し口調
がどう違うかな？聞き比べて
みよう！

※プログラムの編成により、トリの師匠が
上方落語になる場合もあります。

落語

中トリをつとめる
実力派の師匠



古今亭志ん丸 ほか

わんぱく寄席、学校寄席に
数多く出演していただいている
子どもたち目線で話のできる
実力派の師匠。
どんな話がとびだすか
乞うご期待！

※出演者はあくまでも例です

お仲入り（休憩 10 分）

色物

ベテラン演者による
珠玉の芸



はやし や しょう らく

林家正楽 など

芸を極めたベテラン演者の
珠玉の芸をお楽しみいただきます。
紙切り芸はお客様のご要望に
応えて紙にはさみをいれて
形作っていきます。
ほかに奇術、漫才、太神楽曲芸
江戸曲独楽など。





待ってました！
大トリ真打！



いり ふね てい せん ゆう 入船亭扇遊 ほか

わんぱく寄席・学校寄席のトリをかざるのは、前座の時代から現在まで学校公演を重ねてきた経験豊富な出演者。

巧みな話術で子どもたちを落語の楽しい世界へ誘います。

追い出し太鼓 (ご希望の場合は児童生徒がたたくことも可能です)

「出てけ出てけ」というリズムで追い出し太鼓が流れ、楽しかった寄席もお開きの時間。ありがとうございましたという気持ちを込めて。

※本来は、ワークショップで落語や太鼓などを練習して、本公演で発表があるのですがコロナウイルスのために日程がとれないなどの理由がある場合、ワークショップで落語や寄席の解説と学習、本公演で鑑賞という形をとらせていただきます。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

出 演 者： 7～8 名 (出演者の色物が漫才の場合 8 名)

ス タ ッ プ： 5 名

合 計： 12～13 名

タイムスケジュール (標準)

ワークショップが午前中にある場合は、ワークショップのタイムスケジュールをご覧ください

到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:20	8:30～11:00	13:30～15:10	10 分	15:10～17:00	17:00

実施校への協力依頼人員

とくにありません

演目解説

「わんぱく寄席」「学校寄席」は、日本の話芸である落語を中心とした寄席芸を、正しく鑑賞し、楽しみながら理解を深めていただくために行われています。楽しい笑いの中から日本語の話し方の技術を学び、言葉のおもしろさを把握していただくという、あくまでも文化的・教育的立場を重視しております。

心の底から飛び出す笑い声と笑顔

「生まれて初めて笑いました」

「(今日の落語を見ることができて)」

僕が生きていてよかったな～と思いました」

子どもたちからこういった感想をいただきます。今の子どもたちは忙しくて、我を忘れて心の底から笑うことが少なくなっています。落語を聞いて、友達と笑い、家に帰って家族に話してみんなで笑顔になっていただくために落語を学校にお届けしております。

聞く力・話す力・想像する力を伸ばす

子どもたちは頭の中で登場人物を想像させながら落語を聞いていきます。子どもたちが想像する人物や情景は、一人一人が違います。それが落語の面白さです。中には、本当に話の世界の中に入ってしまっ、登場人物と思わず会話してしまうという児童もいらっしゃいました。

笑い話だけでない落語のもつ力

落語には、「生き方」や「命」を考えるテーマがたくさんあります。

子どもたちが今すぐに汲み取れなくても、将来大人になった時に、「ああ、あの時聞いた噺はこのことを言っていたんだ」「こういう意味だったんだ」と気づいてもらうことが望みです。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本公演共演ワークショップの意図

本来落語は一人で演じるものですが、今回の共演ワークショップでは、児童生徒に登場人物の役柄を振り分け、それぞれが役柄を演じてもらうことで、あらためて一人で何役も演じ分けられることのできる落語のすごさを感じてもらいます。

寿限無寿限無……を全児童で合唱することは、普段の落語の概念をこえておりますが、このわんぱく寄席ならではの出来事柄として捉えていただきたい。概念をくつがえすことで子どもたちに親しみやすくそれが将来のお客様に受け入れられる要素になると思います。

児童生徒とのふれあい

話し方のコツをつかみ、聞き手へ伝える表現力が身に付く

落語には、「小噺」「ことばあそび」「しゃれ」など日本語のことばを学べる要素がふんだんに盛り込まれています。
「間」の取り方、上下(かみしも)をつける話し方、しぐさなど、聞き手にわかるようにする「伝える力」「表現する力」、言葉にリズムをつけて話す「音楽性」などの技術がつまっています。
楽しみながら日本語を学べるというメリットがあります。

ワークショップでは、実際に落語家の師匠から落語を口伝いで教わったり、お囃子(三味線)にあわせて太鼓や、リコーダーと一緒に演奏したりして、児童生徒と演者が協力して舞台を作ります。

落語には学習指導要領にある「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「伝統的言語文化と国語の特質に関する事項」が含まれています。

聞く人に豊かな情景を思い描いてもらうための表現力も重要になります。
落語家の高度な話し方の技術を学び、「話す力」「表現する力」を育んでもらい、スピーチをするときに役立てたり、他者へ気持ちをうまく伝えてコミュニケーションをとることに応用してもらいたい。
この技術は、先生が子どもたちに物事を伝える時の参考にもなります。